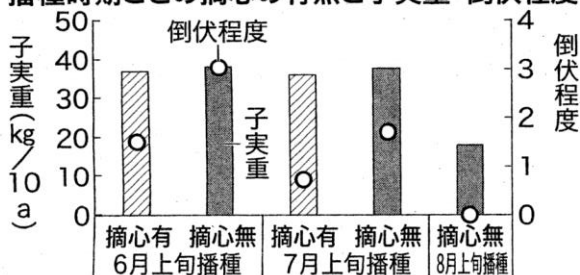


播種時期ごとの摘心の有無と子実重・倒伏程度



注) 摘心は各区本葉9葉期に実施。倒伏程度は無(0)～甚(4)の5段階評価

大豆「フクユタカ」の収量を確保するためには適期播種(はしゅ)が重要ですが、播

大豆「フクユタカ」

「早まき摘心技術」開発 安定した子実重確保へ

種適期である7月上・中旬は降雨による播種の遅延や播種後の乾燥による出芽不良が問題となります。

なります。

そこで、早まきにおいて、生育の途中に茎を摘心することで、茎長を短くして倒伏を防止し、分枝を増やして収量を確保する「早まき摘心技術」を開発し、播種の前進化ができる時期や有効な摘心時期を明らかにしました。

「フクユタカ」では早まきするほど倒伏程度は大きくなりますが、摘心処理を行うことで倒伏程度が軽減し、安定して子実重を確保することができます。播種期も従来の7月上中旬から、6月上旬に前進化できることが分かりました。

また、安定して子実重を確保できる摘心時期は6月播種で7～11葉期、7月上・中旬播種で5～7葉期であることが分かりました。

(長崎県農林技術開発センター 農産園芸研究部門 作物研究室 研究員 松葉一樹)

また、7月より比較的雨天が少なく播種期間が確保できる6月の早まきでは、茎長が長くなりやすく倒伏しやすく